

広告屋 が見てきた もう一つの広島

2025 3.10 MON – 6.27 FRI

広島市公文書館

はじめに

みづま工房写真コレクションとは、昭和20（1945）年10月に水馬義輝氏が広島市で創業した広告代理店みづま工房が、その業務を通じて撮りためてきた、市内の街並みを中心とする写真コレクションです。

そこには、広島の街とともに歩んできた広告会社ならではの視点で写し取った写真の数々が収められており、そのコレクションを広島の戦後の歩みをたどる歴史資料として活かしたいという思いから、当館に寄託されました。

本展は、寄託記念第二弾として昭和30年代から40年代に撮影された写真の中から、広島の食文化の発展や余暇活動の多様化、今年3月に新たに開業する広島駅（当時は広島民衆駅）周辺の移り変わりなどをテーマに構成しています。写真を通じて、当時の人々の生き生きとした生活を感じいただけると幸いです。



1 広島駅前 荒神市場★
昭和42（1967）年夏



2 太田川橋 可部自動車教習所★
昭和42（1967）年5月頃



3 小己斐島★
昭和42（1967）年



4 天満市場★
昭和40（1965）年6月



5 横川駅★
昭和40（1965）年6月



6 広電 西広島駅★
昭和32（1957）年



7 ひろでん会館と国鉄己斐駅★
昭和40（1965）年

1 市街近郊の風景

2 太田川橋は、昭和32年1月の開通当時、中国・四国地区で最大の橋であると言われていた。橋の下には可部自動車教習所の教習コースが広がっていた。

3 小己斐島は、広電井口駅近くの西部埋立第二公園内にある。当時は瀬戸内海が一望できたが、西部開発事業により島とその周りの海だけ残して埋め立てられた。

4 広電天満町駅の南側にあった天満市場。醤油に漬物、パンにお菓子。ここに来ればなんでもそろった。

5 横川駅では昭和38年に全線高架工事が行われた。広電の横川線はまだ駅に引き込まれていない。

6 現在西広島駅がある場所には昭和32年当時、広電己斐電停（市内線）、広電西広島駅（宮島線）、国鉄己斐駅が集まっていた。中央には「宮島電車のりば」の看板が見える。昭和37年に直通運転が始まるまで、市内から宮島へ行くにはここで乗り換える必要があった。

7 ひろでん会館は昭和39年に開業した。



8 古田 西国街道沿いの松並木★
昭和 45 (1970) 年 4 月



9 出汐 国鉄宇品線★
昭和 45 (1970) 年 4 月



10 吉島 貯木場★
昭和 45 (1970) 年 4 月



11 宇品 木材置き場★
昭和 45 (1970) 年 4 月



12 観音 広島県自動車学校★
昭和 44 (1969) 年 2 月



13 江波 カキ殻★
昭和 42 (1967) 年 5 月頃

その手前に見える駅舎は国鉄己斐駅。ひろでん会館の右に伸びる橋は新己斐橋。

8 旧山陽道（西国街道）の面影を残す古田（現古江西町）の松並木。

9 白煙をあげて走っているのは国鉄宇品線の車両。宇品線は明治 27 年に軍用として開業した。その後は貨物線や通勤通学の足として利用されたが、昭和 61 年に完全廃止された。右奥には比治山が見える。

10 吉島貯木場では、港に運ばれた外材を出荷まで海に浮かべて保管していた。陸に上げると重い木材も海の上では軽く、また害虫駆除にも一役買った。右奥に見えるのは黄金山。

11 現在は教育機関やショッピングモールが集まっている宇品西地区の一部は、木材置き場だった。対岸に見えるのは出島地区で、遠景には似島が見える。

12 南観音町（現西区観音新町）の南端には広島自動車試験場、広島県自動車学校のコースがあった。現在の観音マリーナがあるところはまだ埋め立てられていない。

奥には江波皿山と江波山が見える。

13 山積みのカキ殻、その奥には丸子山不動院が見える。本市が発行した『市勢要覧 昭和 42 年版』によると、41 養殖年度（7 月から翌年 6 月まで）のかき生産量は 7,911 トンで、前年度より 277 トンの増産であった。遠景に見えるのは似島。

2 ショッピングセンターへ行こう！

百貨店といえば福屋や天満屋だったが、昭和 42 年 3 月 24 日、今でいうショッピングセンターに近い形態で広島駅の東隣に地下 1 階・地上 6 階の大規模店として、いづみ広島駅前店が開店した。



14 いづみ広島駅前店 開店★
昭和 42 (1967) 年 3 月 24 日



15 いづみ広島駅前店 人だかり★
昭和 42 (1967) 年 3 月 24 日



16 いづみ広島駅前店 店内★
昭和 42 (1967) 年 3 月 24 日

開店の数日前から新聞に告知広告が掲載され、安価な日用品類を豊富にそろえるとあって話題を呼んだ。超特価品をめがけて、開店前に押し寄せたのは約 1 万人。入店を待つ人の行列は、正面玄関前から荒神陸橋にまで及んだ。警官と店員が交通整理にあたったが、けが人が出たり、靴を失くしたりする人がいるほどの混雑ぶりだった。

16 店内 1 階には「開店記念特別大奉仕」と掲げられ、上にのぼるエスカレーターにも多くの客が詰めかけている。



17 広島駅 駅舎★
昭和 33 (1958) 年



18 広島駅 構内★
昭和 30 年代



19 広島駅 建設中の駅ビル★
昭和 40 (1965) 年夏頃



20 広島駅 駅前大橋から★
昭和 43 (1968) 年 7 月



21 広島駅 ホーム 移動販売★
昭和 42 (1967) 年 7 月



22 広島駅 構内 有人改札★
昭和 42 (1967) 年 7 月

氷の塊を商品の上に載せることで冷やしている。販売員が手を伸ばしている冷凍みかんは、当時 1 袋 100 円だった。
22 現在は自動改札が主流だが、昭和 40 年代の広島駅構内の改札口では、改札ボックスに入った駅係員が乗客の差し出した切符を改札鋏で切るのが「いつもの」風景だった。

4 遊びに行こう！

昭和 40 年代に入ると、遊園地やプール、娯楽施設などが増えて人々の余暇の過ごし方が多様化し、休日には家族や友達、会社の同僚とおしゃれをして遠出したり、スポーツで汗を流したりした。



23 広島城 堀で遊ぶ子どもたち★
昭和 43 (1968) 年 9 月



24 平和記念公園 なわとび★
昭和 42 (1967) 年 4 月



25 福屋屋上遊園地 昭和 41 (1966) 年 2 月

3 変わる広島駅

初代広島駅舎は、明治 27 年 6 月に木造平屋建てで広島停車場として設置され、開業時点では山陽鉄道の終点だった。

二代目は、大正 11 年 8 月に駅舎としては国内初の鉄筋コンクリート造 2 階建てに建て替えられた。昭和 20 年 8 月 6 日の原子爆弾により駅舎は大破し、昭和 24 年に本格的に整備された。

三代目は、昭和 40 年 12 月に地下 1 階・地上 7 階の民衆駅（駅舎の建設を国鉄と地元が共同で行い商業施設を設けた駅ビル形態の施設）として開業。名店街にホテルや展望浴場を備えた、全国 6 番目の規模を誇る民衆駅だった。自動車の交通量も増え、昭和 43 年 5 月にはマンモス歩道橋と呼ばれる陸橋が完成した。

今年 3 月にオープンする駅ビルは、駅舎としては四代目となる。

21 ホームの移動販売の台車には、瓶のコーラ、缶のジュース、おつまみや広島土産が積まれている。台車に冷蔵機能は無く、

23 広島城の堀は、周辺のビル工事による地下水のくみ上げなどの影響もあって、昭和 30 年から水位が下がりはじめ、38 年頃にはほとんど干上がってしまった。水が無くなったことで、背丈より大きくなった蓮の中で虫取りができるようになり、子どもたちの格好の遊び場となった。

24 平和記念公園には憩いの場として、子どもたち以外にも多くの人が訪れている。

25 屋上遊園地にはモノレールやティーカップ、回転自動車など、子どもを惹き付けるさまざまな遊具があった。展望喫茶や売店を利用したり、家からお弁当を持参したり



26 太田川遊園地★
昭和 42 (1967) 年 5 月頃



27 次五郎荘グリーンプール★
昭和 43 (1968) 年 8 月頃



28 次五郎荘グリーンプール
昭和 43 (1968) 年 8 月頃



29 元安川 手漕ぎボート★
昭和 42 (1967) 年 5 月



30 ヒロシマアリーナ★
昭和 42 (1967) 年 3 月



31 舟入 バッティングコーナーオープン★
昭和 41 (1966) 年 8 月 26 日



32 広電ボーリングパーク★
昭和 42 (1967) 年



33 平和大通り エスキーテニス★
昭和 45 (1970) 年 4 月



34 太田川ゴルフクラブ 昭和 42 (1967) 年 5 月頃



35 可部ジャングル温泉落成★
昭和 40 (1965) 年 10 月 15 日



36 美容院 ドライヤー中の女性たち★
昭和 42 (1967) 1 月

して、家族で休みを満喫した。

26 佐東町八木（現安佐南区八木）の太田川沿いにあった太田川遊園地は昭和 40 年のこどもの日に開園した。釣り堀やゴーカート、アーチェリーやローラースケートのほかに、キャンプ場も備えた施設だった。

27・28 八幡川峡にあった次五郎荘グリーンプール。建物の屋上から川をまたいで伸びるスライダーで子どもたちが楽しそうに遊んでいる。

29 元安川で手漕ぎボートを楽しむ人々。乗船する前に、栈橋で靴を脱いで利用していた。特徴ある欄干は当時の元安橋。

30 昭和 29 年に鷹匠町（現中区十日市町）にオープンしたヒロシマアリーナが、昭和 41 年に西白島町に移転。移転の際、国際リンク規格となり、本格的な競技会が開催できるようになった。また体育の授業にスケートを取りあげる学校が増えた。

31 舟入橋の北にできた広島スポーツセンターバッティングコーナーのオープン日。野球ボールを模した花輪は、当時のプロ野球各球団の監督から開業祝いとして届いた。翌年 3 月には隣接する舟入ゴルフガーデンが開業した。

32 昭和 39 年元日、広電ボーリングパークは全館暖房・20 レーンを備えてオープンした。休日の朝ともなると、若い人たち・家族連れ・会社の対抗試合などで賑わいをみせた。

33 広島で誕生し昭和 23 年 8 月 6 日の平和祭でお披露目されたエスキーテニス。羽根つきボールを木のラケットで打ち合うこの新スポーツは人々に親しまれ、平和大通りの緑地帯には専用コート（通称 平和コート）も設けられた。

34 昭和 35 年 6 月、戸坂町（現東区戸坂千足）に県内 4 番目に完成した太田川ゴルフクラブは、交通の便がよく、フラットで平易なコースを 18 も備えていた。一度に 30 人が打てる広々とした練習場もあり、ゴルフの大衆化に大きな役割を果たした。

35 熱帯植物の繁る大浴場や、枕から音



37 観音 広島空港
昭和 43 (1968) 年 10 月頃



38 広島空港 新婚旅行★
昭和 42 (1967) 年 10 月

楽が流れる寝風呂などを備えた可部ジャングル温泉が、昭和 40 年 10 月 15 日に開業した。入場料は大人 200 円。大広間では舞踏団の公演があったりと人々を楽しませたが、昭和 49 年 1 月に惜しまれつつも閉鎖した。跡地には現在、安佐北区図書館が建っている。

36 「おなじみのニューヨークが紳士だけのものではなくなりました」という宣伝文句のとおり、昭和 41 年 7 月に中区胡町に女性向けの美容室ニューヨークがオープンした。2階の美容室でドライヤーをしながら雑誌を読んでいる女性たち。おしゃれをして出かけたい女性たちの需要の高まりを感じられる。



39 パチンコ店 店内★
昭和 42 (1967) 年 3 月



40 宮島 ポートレース★
昭和 40 (1967) 年 11 月頃

37 昭和 36 年 9 月 15 日、前日からの雨に加え台風接近による強風が心配される中、大阪発の第 1 号機が無事着陸した。広島空港の開港により、広島からの空の旅が可能になった。

38 タラップのそばに並んでいる、ブーケを持って首から花輪をかけた男女たち。鈴なりの送迎デッキから祝福を受け、これから飛行機で新婚旅行に旅立つ。

39 広島に初めてパチンコ店が誕生したのは昭和 27 年のこと。『広島県遊技業協同組合創立 50 周年記念誌』によると、昭和 42 年の広島県内の店舗数は 206、遊

技台数は約 3 万にものぼった。当時は従業員が台の裏から玉を補充していた。

40 昭和 29 年 11 月 1 日、宮島ポートレース開会式ならびに初レースが開催された。その日はファンのために無料電車・無料バスを走らせ、入場者にはマッチやキャラメルも進呈された。昭和 40 年は開設 11 周年にあたる。

5 うまいもの食べよう！

戦後の食料不足を乗り越え、昭和 25 年 7 月に広島市は市内小学校でパン・ミルク・おかずを出す完全給食を始めた。食品を扱う広島創業の会社も増え、昭和 40 年代は市場が活気づき、人々が食を楽しむ場面が多くなった。



41 天満市場
昭和 40 (1965) 年 6 月



42 広島駅前 荒神市場★
昭和 42 (1967) 年夏



43 広島駅前 荒神市場★
昭和 42 (1967) 年夏



44 広島駅前 路上販売★
昭和 42 (1967) 年夏

多様な食品を大量に消費する時代に入りつつあることが伺える。

41 天満市場の店頭には商品の重さを量るつり下げ秤があり、野菜や醤油、漬物などが売られている。少し奥まったところにあるパンの直売所では、たくさんの種類のパンがガラスケースの中に積まれている。

42・43 広島駅前にあった荒神市場。所狭しと並んだ店舗の前には、和菓子が並ぶ木箱、食堂のメニュー、スイカやバナナが置かれ、その間を自動車がすり抜けて、仕入れた商品を店先まで運搬した。

44 路上で食品を販売しているものもいた。どのように運んだのだろうか、たくさん



45 タカキベーカリー パンの仕分け★
昭和 41 (1966) 年 1 月



46 岸本牛乳 生産ライン★
昭和 43 (1968) 年 12 月



47 キリンビール広島工場 100 年展★
昭和 43 (1968) 年 5 月 25 日



48 キリンビール広島工場 100 年展★
昭和 43 (1968) 年 5 月 25 日



49 キリンビール広島工場 100 年展
昭和 43 (1968) 年 5 月 25 日



50 にしき堂 駅前店★
昭和 40 年代



51 広島バスセンター カレー焼★
昭和 40 年代



52 広島バスセンター カレー焼★
昭和 40 年代



53 走るビュッフェミツヤ★
昭和 42 (1967) 年 5 月



54 広島港★
昭和 45 (1970) 年 4 月



55 新天地 お好み村★
昭和 42 (1967) 年 11 月



56 流川 よりみち通り 屋台★
昭和 42 (1967) 年 11 月

のぶどうや桃、きゅうりなどが広げられている。

45 タカキのパンは、昭和 23 年に比治山本町で創業した。昭和 36 年には瀬野川に工場を持ち、さまざまな種類のパンが作られた。積み上げられた木箱には、これから出荷されるパンが並べられている。

46 明治 33 年、安佐郡三篠村に岸本伊太郎が牛舎および搾取場を新築し、岸本牛乳を開業した。昭和 43 年には牛乳の製造も機械化され、一度にたくさんの牛乳を瓶に詰めることができるようになっている。不良と判別された瓶が入った木箱には、岸本牛乳のバラのマークが見える。牛乳は学校や家庭へと届けられた。

47・48・49 キリンビール広島工場開業 30 年にあたり、昭和 43 年 5 月 13 日から 25 日まで「目で見えるビール 100 年展」が開催された。工場見学やビールの試飲ができるとあって、期間中は 4 万人近い人が詰めかけた。

50 にしき堂は、昭和 26 年 10 月に松原町で創業し、昭和 28 年 12 月には銘菓「もみじ饅頭」の製造が開始された。昭和 40 年代の駅前店では、広島土産の菓子の他にバナナやマスカットも置かれている。

51・52 細長い二重焼の中にカレー味のソースが入ったカレー焼は、1 つ 20 円の手ごろなおやつだった。当時の新聞に掲載されたカレー焼機の広告には、「行列で待つ程大好評 特許カレー焼機 一躍時代の脚光をあびて 菓子業界の話題集中！」とあり、人気があったことが伺える。

53 平和記念公園に来た移動販売車「走るビュッフェミツヤ」。ホットドックやかき氷を求める人たちが列になっている。ベンチでソフトクリームを頬張る人の姿もある。

54 広島港栈橋付近では、行商の女性がお菓子やパン、瓶牛乳などを販売しており、通勤通学中の人たちの小腹を満たした。

55 西新天地広場南側に軽量鉄骨 2 階建ての「お好み村」が開店したのは昭和 40 年 12 月 20 日。仕切りがなく、のれんで



57 市民球場 ビール売り★
昭和 44 (1969) 年頃



58 市民球場 売店★
昭和 44 (1969) 年頃



59 市民球場 名物カープうどん
昭和 44 (1969) 年頃



60 市民球場 名物カープうどん★
昭和 44 (1969) 年頃

区切られた雰囲気は、屋台時代の面影を残すものだった。

56 流川のよりみち通り。複数の屋台が並んでおり、のれんには「ちゃん酒」「ホルモンてんぷら」など、つつい寄り道したくなるメニューが書かれている。

57 今も昔もカープ観戦のお供といえはまずビール。歓声にも負けず、瓶ビールを積んだ重いビール箱をさげて「ビール、ビール!」「コーラ、コーラ!」と汗だくになりながら売っていた。

58 攻守交代の時には、売店前は飲み物や軽食を求める人たちであふれかえり、行き交うのも困難になるほどだった。

59・60 市民球場が設立された昭和 32

年から 70 年近く販売され続けている「球場めし」カープうどん。販売当初、器は唐津焼で具は天ぷらのみだった。

～・～ 広電宮島ガーデン ～・～

昭和 41 年 4 月 10 日に開業した広電宮島ガーデン。宮島といっても島内ではなく、対岸の宮島口桟橋前にあった。開業翌年の宮島来島者数は 240 万人を超えており、開業時にも多くの客が詰め掛けた。ガーデンレストランにパーティーホール、土産物店やモーターなどがあり、夏場に開催されるビアガーデンは、瀬戸内の多島美や行きかう船を見ながら食事が楽しめるとあって賑わいを見せた。



61 宮島口駅から宮島桟橋方面
昭和 42 (1967) 年 1 月



62 宮島タワーの内部
昭和 42 (1967) 年 2 月

同年 7 月 17 日にはシンボルとなっていた宮島タワーがオープン。地上 50 メートル地点に展望室がある「回転」展望タワーだった。15 分かけてゆっくり回転しながら 360 度の景色を楽しむもので、「世界の宮島を新しい角度から眺めよう!!」のキャッチコピーのとおり、宮島や美しい瀬戸内海を一望できた。

タワーは電車からも車からもよく見え、特に夜は回転部分が光っていたので、周囲が暗い中でも目を引いた。

老朽化により平成 9 (1997) 年に解体。宮島タワーと宮島ガーデンがあった場所付近には、令和 4 (2022) 年に広電宮島口駅が移設されている。

62 オープン当初は有料の展望台だったが、昭和 42 年には、展望喫茶として営業していた。窓際にぐるりと席が設けられ、客は外の景色を眺めている。展望台時代の名残だろうか、席と席の間には双眼鏡がある。最大 150 名を収容したという。



63 広電宮島ガーデン正面
昭和 42 (1967) 年 4 月



64 広電宮島ガーデン空撮
昭和 42 (1967) 年 5 月



65 広電宮島ガーデンビアガーデン
昭和 42 (1967) 年 5 月



66 ライトアップされた宮島タワー
昭和 45 (1970) 年 1 月

みづま工房略年譜

- 1945 広告代理業「みづま工房」創業
- 1946 「のど自慢コンクール」開催
この大成功が会社設立につながる
- 1948 株式会社みづま工房設立
- 1956 広島復興大博覧会 企画・デザイン
- 1957 広島市民球場開場 オープニング装飾企画・デザイン
- 1964 季刊誌「ひろしまの観光」創刊
- 1968 月刊誌「る・もんど」創刊
- 1975 カープ優勝パレード 企画・運営・実施
- 1977 広島フラワーフェスティバル企画・運営
- 1989 海と島の博覧会 テーマ館 B 施工
- 1994 第12回アジア競技大会広島 聖火リレー、トーチ、各競技表彰セレモニー等企画・デザイン・施工・運営
- 2009 マツダスタジアム開場 サイン、ディスプレイ、グッズ等企画・制作
- 2022 紙屋町シャレオ シャッターアートミュージアム制作
- 2025 10月1日 創業 80 周年



東洋座屋上 トリス看板 制作作業★
昭和 33 (1958) 年 11 月



福屋クリスマス装飾 設置作業★
昭和 30 (1955) 年 11 月頃

※この解説リーフレットの著作権は広島市公文書館に帰属します。

掲載写真はすべて、みづま工房写真コレクションから。

★がついているものは会場で展示した写真です。

ここに掲載した写真は、広島市公文書館デジタルアーカイブ・システムで見ることができます。



〈参考文献〉

- 『広島橋』広島市建設局道路計画部道路計画課 1995
- 『広島市西部開発事業誌』広島市 1983
- 『広島電鉄開業 100 年・創立 70 年史』広島電鉄社史編纂委員会 2012
- 『RM LIBRARY 宇品線 92 年の軌跡』長船友則 2012
- 『挑戦の流儀』株式会社イズミ 2012
- 『福屋五十年史』株式会社福屋 1980
- 『広島スポーツ史』財団法人広島県体育協会 1984
- 『広島県遊技業協同組合 創立 50 周年記念誌』広島県遊技業協同組合 2014
- 『広島市教育委員会三十年の歩み』広島市教育委員会 1981
- 『広島県史 年表 別編 1』広島県 1984
- 『麒麟麦酒の歴史－続戦後編』麒麟麦酒株式会社社史編纂委員会 1985
- 『キリンビール広島工場 50 年史』キリンビール広島工場年史編纂委員会 1988
- 『る・もんど ひろしま百点 No.3』株式会社みづま工房 1969
- 『河岸の戦後史 3 元安川』広島市企画調整局文化担当 1987
- 『河岸の戦後史 4 本川』広島市企画調整局文化課 1988
- 『河岸の戦後史 6 太田川放水路』広島市企画調整局文化課 1992
- 『河岸の戦後史 7 太田川中流』広島市教育委員会文化課 1994
- 『河岸の戦後史 10 八幡川』広島市教育委員会文化課 1999

名 称	みづま工房写真コレクション寄託記念 Part2 広告屋が見てきたもう一つの広島
発 行	広島市公文書館 広島市中区大手町四丁目 1 番 1 号 大手町平和ビル TEL (082)243-2583 広 D3-2024-446